

今日は北斗宮！

筑豊の
素敵な神様
紹介します



北斗宮



神社の由来 History

人皇第三十八代天智天皇の時代に(紀元1331年) 若木連と言う人が北斗星の信仰を篤くし益富山(嘉麻市)に北斗大明神として勧請し、延命長寿縁結びの神として崇めたのが北斗宮の起源となります。その後、天正6年(1578年) 龍造寺隆信(※1)と大友宗麟(※2)との戦いで社殿が一度焼失してしまいましたが、再びその2年後、天正8年(1580年)に秋月種実の手によって社殿が再建されています。

※1 龍造寺隆信(りゅうぞうじ たかのぶ) = 肥前の戦国大名
※2 大友宗麟(おおとも そうりん) = 豊後の戦国大名



北斗宮の大楠様

北斗宮一帯には沢山のクスノキの木があり、その中でもひととき目立つ大クスがありました。その大クスは、四方八方へ枝が伸びてしげり、枝の下には七つの村がすっぽり隠れる程でいます。世界一の太い大クスは、朝、お日様が顔をのぞかせても、西や北にある村はいつまでも夜が明けず、お昼近くになってやっと少し明るみはじめていたのです。そこで、村人は寝坊をしないようにと口癖に「おきよおきよ」と言っていたのでこの土地を「おきで」と呼ぶようになりました。そして約430年程前、龍造寺隆信が筑後から豊前へ攻めて来た時、北斗宮に火がかけられました。驚いた宮司は急いで、ご神体を抱きかえクスの根本の大きな穴に身を隠しました。すると一本の矢がクスの木に向かって飛んできたのです。その矢は、クスの木にあたるとたんはね返って、その矢を放った武士に突き刺さったのです。これを見た武士たちは、神様の罰が当たったのだと、あわてて逃げ去ったそうです。今から、約300年程前に貝原益軒(※3)が書いた本の中に「今までに、こんなに大きな木を見たことがない。村人たちは何か災害など大変な事が起きる時、大きい枝が風が無くても折れると言い伝えがある。」と記されています。現在、その大きなクスもなくなってしまい大クスの根から分かれたと言われている新たなクスの木が、参道右側にたくましく大きくなって大楠神社として祭られています。そして、北斗宮の拝殿・りんのう寺本堂のがくは、大クスさまの一部だと言われている。

※3 貝原益軒 = 江戸時代の本草学者、儒学者。



宮司さんからひとこと♪

古くからある北斗宮は地域の皆様に親しまれ、今でも地元の参拝者は縁結びの御利益を受けに訪れます。時代は変わりますが、北斗宮はいつまでも変わることなく大隈町をお守りしています。

宮司 大里吉比古さん

神社のあれこれ教えます！

大クスの枝は厄除け・家内安全・戦時中は鉄砲のタマ避けなどのお守りとして持っている人が多かったそうです。

教えて御祭神

- 伊邪那岐大神(いざなぎのおおかみ) = 国生み
- 伊邪那美大神(いざなみのおおかみ) = 神生み
- 天之御中主大神(あめのみなかつのみかみ) = 神話の一番最初に出てくる神様

※伊邪那岐命は伊邪那美命のご夫婦の神様です。

御利益 = 交通安全御守・縁結び・縁談・子授け・安産

どこにあるの？

住 所 / 〒820-0302 福岡県嘉麻市大隈町988
T E L / 0948-57-0701